

内科学領域において顕著な業績を上げ、今後も慶應医学で中心的な役割を果たすことが期待される若手研究者2名（臨床研究分野、基礎研究分野、各1名）を顕彰する目的で慶應義塾大学医学部内科学教室同窓会賞が創設されました。第1回となります本年は臨床研究分野 松木康夫賞を平田賢郎先生（平成19年卒、消化器）、基礎研究分野 猿田享男賞を宮本和享先生（平成17年卒、循環器）が受賞され、6月23日に開催されました平成30年度内科学教室同窓会総会・懇親会で授賞式が行われました。両君の益々の発展が期待されます。（文責：2018年度内科学教室HP委員会委員長 正岡建洋）

平田賢郎先生受賞挨拶

この度は慶應義塾大学医学部内科学教室同窓会賞2018臨床研究分野松木康夫賞の栄誉を賜り、誠に光栄に存じます。

咽頭におけるメラノーシスの観察の食道癌などの上気道消化管の悪性腫瘍の予測における有用性につきまして報告致しました(Hirata K et al. Cancer Sci. 108(5):1058-1064, 2017)。これまで報告のあるflushingの有無やMCVなどのリスク因子との組み合わせにおいて、さらに高い精度での予測が可能となることも示すこともできました。

今後も慶應発の研究を企画・立案・遂行させて参る所存でございますので、引き続き、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

宮本和享先生受賞挨拶

この度は慶應義塾大学医学部内科学教室同窓会賞2018基礎研究分野猿田享男賞の栄誉を賜り、誠に光栄に存じます。

宿主の遺伝子を改変しない安全なベクターであるセンダイウイルスを作製し、従来のレトロウイルスベクターを用いる方法と比較してより短時間で心筋細胞を効率的に作製することに成功しました。次に同ベクターを心筋梗塞のマウスモデルに導入したところ、生体内において心筋細胞が分化し、1カ月後に心機能の改善や線維化組織の縮小が認められました。このように宿主のゲノムを損傷することなく短期間かつ効率的に、心筋細胞を直接的に分化させる方法を確立し、報告致しました(Miyamoto K. et al. Cell Stem Cell. 22(1):91-103, 2018)。

これまで本研究においてご指導いただいた先生方にこの場を借りて御礼申し上げるとともに、心筋再生医療の真の実現化に向けて今後も精進致したいと思っております。



写真左側から
猿田享男賞受賞者の宮本和享先生、
猿田享男先生、松木康夫先生、
松木康夫賞受賞者の平田賢郎先生